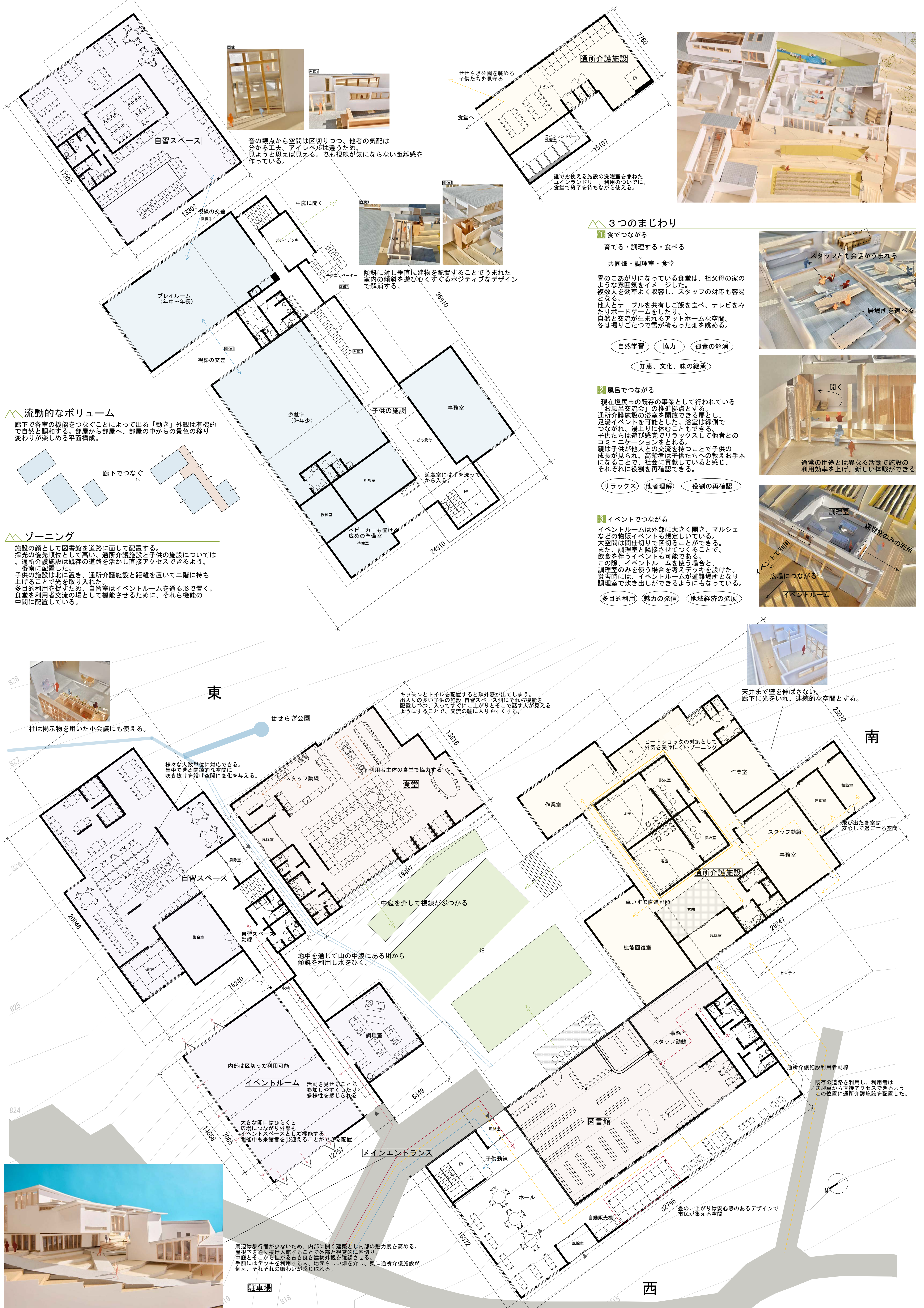




流動的なボリューム

廊下で各室の機能をつなぐことによって出る「動き」外観は有機的で自然と調和する。部屋から部屋へ、部屋の中からの景色の移り変わりが楽しめる平面構成。

ゾーニング

施設の顔として図書館を道路に面して配置する。採光の優先順位として高い、通所介護施設と子供の施設については、通所介護施設は既存の道路を活かし直接アクセスできるよう、一番南に配置した。子供の施設は北に置き、通所介護施設と距離を置いて二階に持ち上げることで光を取り入れた。多目的利用を促すため、自習室はイベントルームを通る形で置く。食堂を利用者交流の場として機能させるために、それら機能の中間に配置している。

3つのまじわり

① 食でつながる

育てる・調理する・食べる
↓
共同畑・調理室・食堂

量のこあがりになっている食堂は、祖父母の家のような雰囲気イメージした。複数人を効率よく収容し、スタッフの対応も容易となる。他人とテーブルを共有しご飯を食べ、テレビをみたりボードゲームをしたり、利用のついでに、自然と交流が生まれるアットホームな空間。冬は掘りこたつで雪が積もった畑を眺める。

自然学習 協力 孤食の解消

知恵、文化、味の継承

② 風呂でつながる

現在塩尻市の既存の事業として行われている「お風呂交流会」の推進拠点とする。通所介護施設の浴室を開放できる屋とし、足湯イベントを可能とした。浴室は縁側でつながれ、湯上りに休むこともできる。子供たちは遊び感覚でリラックスして他者とのコミュニケーションをとれる。親は子供が他者との交流を持つことで子供の成長が見られ、高齢者は子供たちへの教えお手本になることで、社会に貢献していると感じ、それぞれに役割が再確認できる。

リラックス 他者理解 役割の再確認

③ イベントでつながる

イベントルームは外部に大きく開き、マルシェなどの物販イベントも想定している。大空間は間仕切りで区切ることができる。また、調理室を隣接させておくことで、飲食を伴うイベントも可能である。この際、イベントルームを使う場合と、調理室のみを使う場合を考えデッキを設けた。災害時には、イベントルームが避難場所となり調理室で炊き出しができるようになっている。

多目的利用 魅力の発信 地域経済の発展

